

福岡県社会福祉審議会 児童福祉専門分科会
子どもの貧困対策の推進に関する部会 会議録

1. 開催日時 令和4年11月10日(木) 15:50～16:50
2. 開催場所 福岡県庁 行政棟10階特1会議室
3. 出席委員 安部部会長、松崎副会長、伊藤委員、大島委員、大谷委員、小方委員、鎌田委員、熊本委員、小坂委員、杉原委員、西村委員、三宅委員(12名)
4. 欠席委員 板谷委員、小河委員、奥村委員、堺委員、安永委員(5名)
5. 事務局 保護・援護課：横溝課長、堺企画監、生活困窮者自立支援係
6. 議題 (1)「福岡県子どもの貧困対策推進計画」の令和3年度実施状況
(2) 子ども支援オフィスの相談実績から見える現状・傾向
(3) その他

7. 議事の概要(司会：堺企画監)

①開会	保護・援護課長 挨拶
②会議の成立について	福岡県社会福祉審議会規則第9条第3項の規定により準用する同規則第6条第3項の規定により、部会が成立していることを報告
③会議の公開について	子どもの貧困対策の推進に関する部会設置要綱第4条第1項の規定により、公開とすることを報告
④質疑応答	(1)「福岡県子どもの貧困対策推進計画」の令和3年度実施状況について 事務局より説明 【質疑応答】 (安部会長) 福岡県子どもの貧困対策推進計画には、政令市は含まれているのか。 (事務局) 政令市も含まれる。 (小坂委員) 教育支援関係として、生活困窮世帯やひとり親家庭を対象にした

大学等進学に向けた支援を実施されたとのことだが、指標の生活保護世帯の子どもの大学進学率は悪化している。

生活保護世帯が大学に進学するのはハードルが高い、最近では給付型奨学金も充実してきているが、生活がなかなか難しく大学を諦めるケースもあるが、そのあたりをカバーする施策はあるか。

(事務局)

委員のおっしゃったとおり、高等教育の新制度が一定程度充実してきたところ。また、進学支援事業のなかで、奨学金や教育ローンの情報を提供し進学できるような取り組みも行っている。

生活保護世帯については、大学進学時に自宅からの通学だと 10 万円、自宅外だと 30 万円が支給されており、こういった制度周知もしっかり行っていく。

(安部会長)

ある市が生活保護世帯の中学生高校生に向けたパンフレットを作成しており、ケースワーカーが子どもたちに直接会って制度の説明をしている。

大学進学の為のアルバイトについては、収入認定されない事や、生活保護はやましいことではなく制度なので受けていいこと等を説明している。具体例は市の HP に載っている。

生活保護のケースワーカーが直接、大学進学だけではなく、自立支援のための情報を直接子どもに伝えていく取り組みを県としてもあるのではないか。

(伊藤委員)

制度はあるのに、認識されず利用されていない。わかりづらい。認識されやすくわかりやすい直接的な制度を作って頂きたい。

また、そういった方に伝わるような PR の仕方を考えていただきたい。

(安部会長)

PR の仕方については民間に依頼した方がいいかもしれない。

(大谷委員)

資料 1 の指標の中で「重要な事柄の相談相手がない」の数値が上がっているのが一番気になり、心配なところ。相談することで、

悩みが解消し、早期発見・虐待防止になる。

気軽に相談できる体制を作っていくのが大事ではないかと感じた。

(安部会長)

今問題なのは貧困だけではなく、社会的孤立、人と繋がれず、家族間で抱え込み、困っているが自分からは助けを求めることができない方が多い。

貧困関連で、SNSを使った相談はできるのか。

(事務局)

国で行っている「寄り添いホットライン」があり、対象は全国。周知はしているところだが、あまり広がっていない。

(大谷委員)

現在の活動で一番比重が大きいのが子ども食堂の現場。令和3年に「福岡県子ども食堂ネットネットワーク」が立ち上がり、筑紫地区にも72カ所子ども食堂があり、子ども食堂に来た親・子どもからの相談が121件あった。

コロナで会食ができない代わりに、食材の配付の活動を行っているが、直接地域の方と会って相談できる窓口になっている。

窓口はたくさんあってよく、地域との繋がりを大切にしていける取り組みをしっかりと応援していかなければならないと感じている。

(安部会長)

社会的孤立が進んでいることをしっかりとらえて、孤立させない為の結びつきが早急に必要だと感じる。

(西村委員)

部会長発言の市の政策について、教育の為に利用する為なら高校生の時にアルバイトをしても収入認定されないという例があったが、私自身ひとり親家庭の身として高校生の頃にアルバイトをしたいと申し出たところ、学校からアルバイト禁止を言われた。アルバイトをすることを学校側に認めてもらえる方法はないか。

(安部会長)

学校に許可をとらないとアルバイトができないという実態があ

るか、中学・高校生がアルバイトが可能かどうか調査することは可能か。

(三宅委員)

基本的には学校生活を充実させるために、勉強や部活に集中していただくが、家庭の状況によって申出があった場合、アルバイトを認めるという学校がほとんどだという認識。理由の如何にかかわらずアルバイトを禁止する学校は今ないのでないか。

福岡県内の公立校については申出があれば認めていると認識しており、私立については不明。

(安部会長)

小・中学校は生活保護世帯の把握ができるが、高校はどうなのか。

(三宅委員)

就学援助金が給付されるので、合格者説明会等保護者が集まる機会をとらえ案内するようにしている。県からも、必ず皆さんに周知できるようにという流れができている。途中で経済状態が変わって申し出る場合も、周知するようにしている。

(安部会長)

ひとり親家庭の貸付金などの就学援助があるが、そういう分も学校側で把握できるのか？

(三宅委員)

学校を通じて申出をする場合が多く、基本的には把握できている。理由もなく家庭の経済状況を調査することはできないため、申出に関与することで把握しているのが現状。

(安部会長)

夜にアルバイトや親の世話をを行い学校では寝ているなど、教育現場で、色んなサインを出している子どもがいると思われる。先生方が声をかけ、次に繋げていくことができないか。

(三宅委員)

気づきは教師の大事な力の一つである。また個人面談や保護者面談も定期的に行っており、気になる子については担任会等で情報共

有を行い、対応について協議している。県の施策でスクールカウンセラーを全学校で配置することとなっているため、ご家族も含めてカウンセリングをすすめたりしている。できるかぎり状況を把握するよう努めている。

(安部会長)

どうやって支援を届けていくか考えていく必要がある。

**(2) 子ども支援オフィスの相談実績から見える現状・傾向について
事務局より説明**

(松崎委員)

支援内容について、食糧支援や具体的な例が書いてあるが、子ども支援オフィスが行った支援とそれ以外の支援についてどのように整理しているのか。

(事務局)

食糧支援について、子ども支援オフィスは運営団体の自主的な事業として、食糧支援についても協力いただいている。

また、現在、子ども食堂やNPO法人等のご協力いただけるような食糧支援をおこなっている団体との協定・協議関係を結んでいるところ。

(安部会長)

子ども支援オフィスとは、コーディネート機関なのか、直接支援機関なのか？

(事務局)

まず相談を受けとめ、直接的な支援メニューもあるが単独では賄えないので、相談者の状況に応じて必要な法律・制度への案内もしている。

(安部会長)

11頁の支援内容について、子ども支援オフィスとしての支援内容と、繋いだことで支援につながる支援が混在している。分けて書かれた方がわかりやすいと思うので参考にしてほしい。

(西村委員)

コロナ禍で依然として相談件数が多く、特に最終学歴が中・高校生の相談が増えているというデータを見て、相談が増えないようにどうすればいいのかも考えていただければと感じた。

(安部会長)

相談件数の増加はマイナスの影響ばかりでなく、困ったときに相談・支援につながった人はどれだけいると考えることも重要。相談の結果、みんなが安定したら件数も減っていくかもしれない。

(大谷委員)

相談内容は大小様々だが、相談窓口が増える、相談する場所があることが大事。

11 頁の支援内容の食糧支援について、フードバンクや子ども食堂との連携が進んでいるとのことで大変うれしく思う。

(伊藤委員)

フードバンクの食糧支援や給付金が一番貧困家庭が望んでいる事。

134 の事業について、県民がどれだけ知っているのか、本当に効果のある施策を、わかりやすい施策を届けて欲しい。

(小坂委員)

子ども支援オフィスでは、相談にくるのは親御さんだと思う。親御さんが相談に来ない家庭で困っている子どもがたくさんいる。

子どもが直接相談に来られるような場所を作ってほしい。また、その中で子どもの声を直接聞いたうえで子どもの貧困対策を検討いただきたい。

(安部会長)

現在の計画は令和7年度までとなっているが次期計画に向けて子どもの声をどうやって反映させるかを考えていただきたい。

また、コロナに加え、物価高による貧困家庭で生活する子どもたちの苦しい状態についても、計画にはなかった新しい事態であるがどうやって救えるか考えていただければ。

(大谷委員)

現場で感じる事として、文章をしっかりと読み込めない親御さんが増えてきた印象がある。手紙や資料の内容を読み込めないため、またちがった方向を皆さんと考えていけたらと思う。

(安部会長)

その方は SNS はみられている？

(大谷委員)

SNS はみてらっしゃる。

子ども食堂の現場で簡略に説明する場面もある。

(安部会長)

読むのではなく視覚的に伝わるような資料づくりも大切。

(3) その他

事務局より令和4年度9月補正予算で計上した子ども食堂への支援金である「令和4年度子ども食堂物価高騰対策支援金」の事業を紹介。

閉会